



JASDAQ

平成 17 年 7 月 25 日

各 位

会 社 名 株式会社リクルートコスモス
代表者名 代表取締役社長 町田 公志
(JASDAQ コード 8844)
問合せ先 グループ戦略室長 高野 慎一
(TEL. 03-5440-4010)

特別損失の計上並びに平成 18 年 3 月期業績予想に関するお知らせ
～ 新生リクルートコスモスの企業価値向上を目指して～

当社は、平成 17 年 7 月 25 日開催の取締役会におきまして、下記のとおり、現在保有しておりますファーストファイナンス株式会社の全株式を株式会社リクルートの子会社である株式会社アール・ケー・エステートへ譲渡すること、また、将来に向けた一層の財務体質の強化及びより早期に当社企業価値向上を実現することを目的に、流動資産勘定の販売用不動産等につき評価減を実施すること、連結子会社で行なうゴルフ場開発事業から、将来撤退することを前提に事業損失見込額を引当てることを決議し、平成 18 年 3 月期に固定資産の減損損失を含めて総額 881 億円の特別損失を計上することといたしました。

また、それに伴い、平成 18 年 3 月期の業績（中間期・通期）予想が固まりましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 今回の特別損失計上の背景と目的

当社は、平成 17 年 6 月 30 日付で Unison Capital Partners ,L.P.、Unison Capital Partners (F),L.P.、UC Astro Investor,L.P.(以下、これらを合わせて「ユニゾン」という。)及び機関投資家からの出資を受け入れ、リクルートグループとの資本関係を解消し、リクルートグループから独立いたしました。

今回の特別損失計上は、既にお知らせしておりますとおり、新生リクルートコスモスのスタートに際し、将来に向けた一層の財務体質の強化を目的に、当社及びユニゾンが目指す、より早期に当社の企業価値向上を実現するという観点とユニゾンにおける投資的観点も加え、全資産の内容・評価を可能な限りアグレッシブに見直したことに伴い実施するものであります。

今回の決定により、大幅な当期純損失を計上することになりますが、財務体質の強化が促進されることで、今後の収益基盤は更に強固なものになると考えております。

2. 今回の特別損失の概要について

(1) 投資有価証券売却損

平成 17 年 7 月 25 日開催の取締役会におきまして、リクルートグループからの独立に伴い、現在保有しておりますファーストファイナンス株式会社の全株式を譲渡することを決議いたしました。その概要は次のとおりであります。

譲渡資産の内容

ファーストファイナンス株式会社株式 6,527 千株（簿価 15,512 百万円）

譲渡価額

1 円

譲渡先

株式会社アール・ケー・エステート（株式会社リクルートの 100% 子会社）

譲渡の日程

契約日：平成 17 年 7 月 25 日

受渡日：平成 17 年 7 月 25 日

当該事象の損益及び連結損益に与える影響

当該事象により、平成 18 年 3 月期の連結損益及び個別損益に投資有価証券売却損 15,512 百万円を特別損失として計上する予定であります。

(2) 販売用不動産評価損

平成 17 年 7 月 25 日開催の取締役会におきまして、流動資産勘定の販売用不動産等につき評価減を実施することを決議いたしました。

その概要は次のとおりであります。より早期に当社の企業価値向上を実現するという観点とユニゾンにおける投資的観点も加え、開発計画の見直し、売却予定時期の見直しなどを図ったことによるものであります。

対象資産の概要

勘定	簿価(平成 17 年 3 月末)	新簿価	評価損
流動資産	61,008 百万円	16,353 百万円	44,655 百万円

当該事業の損益及び連結損益に与える影響

当該事象により、平成 18 年 3 月期の連結損益及び個別損益に販売用不動産評価損 44,655 百万円を特別損失として計上する予定であります。

(3) 事業損失引当金繰入額

平成 17 年 7 月 25 日開催の取締役会におきまして、当社連結子会社である芝山グリーンヒル株式会社が行なうゴルフ場開発事業より将来撤退することを決議いたしました。

これは、より早期に当社の企業価値向上を実現するという観点とユニゾンにおける投資的観点も加え、開発計画の見直しなどを図ったことによるものであります。

当該事業の損益及び連結損益に与える影響

当該事象により、平成 18 年 3 月期の連結損益及び個別損益に事業損失引当金繰入額 2,790 百万円を特別損失として計上する予定であります。

(ご参考) 平成 18 年 3 月期の特別損益の内訳

内訳	金額(連結)	金額(個別)
投資有価証券売却益(注)	2,578 百万円	1,820 百万円
特別利益の合計(A)	2,578 百万円	1,820 百万円

内訳	金額(連結)	金額(個別)
固定資産の減損損失(注)	25,129 百万円	() 25,129 百万円
投資有価証券売却損	15,512 百万円	15,512 百万円
販売用不動産評価損	44,655 百万円	44,655 百万円
事業損失引当金繰入額	2,790 百万円	2,790 百万円
特別損失の合計(B)	88,086 百万円	88,086 百万円

() 連結子会社の減損損失計上に伴う貸倒引当金繰入額 6,000 百万円を含んでおります。

特別損益(A) - (B)	85,508 百万円	86,266 百万円
---------------	------------	------------

(注) 投資有価証券売却益、固定資産の減損損失に関しましては、平成 17 年 5 月 27 日に
て情報開示しております。

3. 平成 18 年 3 月期の業績(中間期・通期) 予想について

平成 17 年 5 月 27 日付で公表いたしました平成 18 年 3 月期の業績予想におきましては、当期純利益を「未定」といたしておりましたが、上記特別損益の内容を織り込んだ平成 18 年 3 月期の業績(中間期・通期) 予想が固まりましたのでお知らせいたします。

(1) 平成 18 年 3 月期の連結業績予想

中間期 平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	113,000	6,000	未定
今回修正予想(B)	113,000	6,000	80,500
増減額(B - A)	0	0	-
増減率	0	0	-
前期(平成 16 年 9 月中間期)実績	85,800	4,143	3,670

通期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	218,000	13,500	未定
今回修正予想（B）	218,000	13,500	75,000
増減額（B - A）	0	0	-
増減率	0	0	-
前期（平成 17 年 3 月期）実績	190,803	9,426	2,518

(2) 平成 18 年 3 月期の個別業績予想

中間期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日）（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	90,000	5,000	未定
今回修正予想（B）	90,000	5,000	81,300
増減額（B - A）	0	0	-
増減率	0	0	-
前期（平成 16 年 9 月中間期）実績	63,088	3,128	3,255

通期（平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日）（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	175,000	11,000	未定
今回修正予想（B）	175,000	11,000	76,000
増減額（B - A）	0	0	-
増減率	0	0	-
前期（平成 17 年 3 月期）実績	148,954	6,864	1,318

平成 18 年 3 月期の（連結・個別）業績予想における売上高・経常利益については、当初予想（平成 17 年 5 月 27 日公表済み）に変更はございません。

また、本日「減資並びに資本準備金及び利益準備金の減少に関するお知らせ」を別途情報開示しておりますのでご覧下さい。

本資料記載の業績予想に関しましては、本資料発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。今後、事業環境の変化を含む様々な要因によって、実際の業績が大きく異なる可能性があります。

以上